

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	高知県第3910116395号
法人名	医療法人 仁栄会
事業所名	グループホーム やすらぎ
訪問調査日	平成 20 年 3 月 28 日
評価確定日	平成 20 年 7 月 4 日
評価機関名	社会福祉法人 高知県社会福祉協議会

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	高知県指定第391016395号
法人名	医療法人 仁栄会
事業所名	グループホーム やすらぎ
所在地 (電話番号)	高知市塩田町19-26 088-875-3500

評価機関名	社会福祉法人 高知県社会福祉協議会		
所在地	高知市朝倉戊375-1高知県立ふくし交流プラザ内		
訪問調査日	平成20年3月28日	評価確定日	平成20年7月4日

【情報提供票より】(20年3月2日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 12 年 11 月 27 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	17 人
職員数	12 人	常勤 12 人, 非常勤	人, 常勤換算 11.2人

(2) 建物概要

建物形態	<input checked="" type="radio"/> 併設 <input type="radio"/> 単独	新築/ <input checked="" type="radio"/> 改築
建物構造	鉄骨 造り	
	5 階建ての	2 階 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000~35,000 円	その他の経費(月額)	10,000 円	
敷 金	有() 円	<input checked="" type="radio"/> 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 円	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	円
	または1日当たり		1,000 円	

(4) 利用者の概要(3月2日現在)

利用者人数	17 名	男性	8 名	女性	9 名
要介護1	4 名	要介護2	5 名		
要介護3	4 名	要介護4	2 名		
要介護5	2 名	要支援2			
年齢	平均 85 歳	最低	63 歳	最高	98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	島津病院 おかだ歯科
---------	------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

住宅と公的機関が混在する地域の中にあるホームは、高齢者住宅の2階部分を改修したもので、個性的で、こじんまりしており、利用者の顔が見えてきそうなホームである。浴室が、高齢者住宅との共同利用となっているが、清潔感があり、温泉のようにゆったりと入浴できるものとなっている。利用者の中に、腎臓透析をしている利用者が数名いるため、母体法人の医療機関の栄養士が献立を作成し、食事療法を行っている。利用者にとっても家族にとっても、安心して利用を続けることができる大きな要因である。また、利用者一人ひとりが、小遣いを自己管理しており、お金を自由に使えるということは、当たり前の暮らしの前提となることであり、今後も継続されることを期待したい。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	多くの改善課題について職員には報告しているが、改善に至っていないものが多い。「希望する利用者には夜間入浴を実施する」など、改善している点もあるが、改善計画が作成されず、また、職員間で話し合う時間が持てなかったことなどが、その他の改善課題が改善に至らなかった大きな要因であろう。ただ、職員が問題意識を持ってサービス提供に努めていることから、これからは改善計画を立て、職員全員で改善課題に取り組むことを期待したい。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	評価の意義や目的を職員に周知し、前向きに取り組んでいる。評価結果(詳細)を全職員に配布し、各職員が記入し、ユニット会で検討して、管理者がまとめている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は、利用者の状況報告、事業所の事業報告、今後の活動報告、外部評価の結果報告等を行っているが、メンバーからの意見はあまり出していない。運営推進会議において地域メンバーとの素直な意見交換をするためにも、地域に出向き、事業所の役割等を広報するなど、地域に根ざした活動を推進することを期待したい。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	苦情等は現在出していないが、要望がある時は家族と話し合い、職員間で検討して対応している。苦情は、ホームにとってサービスの質の向上に欠かせないものであり、意見や苦情が気軽に出来るような仕組み作りが望まれる。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	当該地域は住宅地域と公的な機関が混在し、高齢化が進み、町内会もあまり活動していない。町内会行事が少なく、そのためホームからの参加もなく、町内会にも加入していない。運営推進会議には町内会長が参加しているが、地域におけるホームの認知度が低く、災害訓練への地域住民の協力も得られていない。全職員で話し合い、地域密着型の事業所の特徴である「地域との支えあい」が実践できるよう取り組むことを期待したい。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

外部	自己	項目	取り組みの事実 (<input checked="" type="checkbox"/> 実施している内容・ <input type="checkbox"/> 実施していない内容)	(○ 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	<input checked="" type="checkbox"/> 事業所独自の理念がある。 <input checked="" type="checkbox"/> これまでの理念に加え、地域密着型サービスとしての役割を目指した内容である。 地域生活の継続支援と、地域との関係性を強化する理念がうたわれている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> 理念について職員間で話し合いの機会をもち、意識づけがされている。 理念については、毎日15時に職員全員で声を出して読み上げ、確認をしている。カンファレンスやユニット会等でも話し合っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 日々のサービスの提供場面（言葉かけ、態度、記録等）において、理念が反映されている。 日々の支援の中で、優しく言葉掛けや挨拶をし、理念が反映できるよう心がけている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	<input type="checkbox"/> 地域住民の一員として、町会、自治会等に参加している。 町内会には加入していない。利用者全員で入会してほしいとの希望があり、現在検討中である。 <input type="checkbox"/> リサイクル活動や行事など地域活動の情報を集め、それらに参加するなど、接点を持つ努力をしている。 町内会とは連携がないわけではないが、地域活動としては、粗大ゴミ収集の当番をするぐらいである。町内会の会員が高齢化しており、町内会活動自体も活発ではない。	○	地域住民の高齢化も進んでいることから、地域との関わりを積極的に採ることによりホームの存在意義を確立し、地域の一員として地元の人々との交流を深めていくことを期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> サービス評価を実施するにあたり、評価の意義とねらいについて運営者、管理者、職員で話し合い、全員で自己評価に取り組んでいる。 評価の意義等は職員全員が理解している。評価結果（詳細）を職員全員に渡し、職員が記載し、ユニット会で検討して、管理者が纏めている。 <input type="checkbox"/> 評価で見出された課題について改善計画を立て、その実施に取り組んでいる。 評価結果は職員に報告し、「希望する利用者には夜間入浴を実施する」など改善している点もあるが、職員間で話し合う時間を持てなかったため、改善計画は作成していない。	○	評価で見出された課題については、全職員が課題を認識し、改善にあたることで、将来のサービスの質の向上にも資するものであり、改善のプロセスのわかる改善計画を立て、職員全員で改善に取り組むことを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (<input checked="" type="checkbox"/> 実施している内容・ <input type="checkbox"/> 実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営者推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に生かしている</p>	<p><input type="checkbox"/>会議では、事業所からの報告とともに参加メンバーから質問、意見、要望を受け、双方向的な会議となるよう配慮している。 会議は主に、事業所からの事業報告や今後の活動報告などで、参加メンバーからの要望や意見などはあまり出ていない。</p> <p><input type="checkbox"/>評価で明らかになった課題について会議で報告し、改善に向けて取り組んでいる。 評価で明らかになった課題について報告しているが、メンバーからの意見、アドバイス等は出ていない。</p>	○	改善課題について運営推進会議で話し合い、その結果を日々のサービスの向上に生かしていくことが重要である。意見がメンバーから出ないことの背景を探り、双方向で活発な意見交換ができる会議になることを期待したい。
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/>市町村職員の研修場所として事業所を活用してもらったり、また市町村担当窓口に対して、事業所の実情やケアサービスの取り組みを折に触れて伝えるなど交流を図っている。</p> <p>地域包括支援センターからの利用者の紹介や市の実地指導を契機に、ホームの運営やケアプランの立案等について、相談や指導を受けるなど、連携を深めている。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動について、家族等に定期的およびここに合わせた報告をしている。</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/>家族等の来訪時には声をかけ、利用者の状況や家族のことについて話し合っている。 家族の来訪時に積極的に近況報告をしている。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>利用者の事業所での暮らしぶりやエピソードなど、手紙や写真等で伝えている。 月1回の「やすらぎ便り」に、利用者の日々の暮らしぶりや体調を個別に記載し、写真を同封して送付している。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>心身の状況について、何らかの変化や問題が起きた時に必ず報告されている。 体調不良時や臨時に受診した時は電話で報告している。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>金銭について使途の確認や金銭出納帳等を明示し、その都度あるいは定期的に報告している。 3,000～5,000円程度の小遣いを個人で管理している利用者が15人いる。医療費等は、ホームで管理しており、家族来訪時に金銭出納帳を明示して報告し、確認のサインをもらっている。</p>		
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/>家族会や家族同士の集まりの場で意見を出せるような仕組みを作っている。 家族会はないが、入居者の3分の2の家族は頻繁に来訪するため、家族の意見、意向、要望等をその時に話し合うように努めている。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>苦情への対応で終わりではなく、その苦情の発生要因を探り、課題を検討し、質の向上をめざす取り組みをしている。 現在まで苦情はないが、要望がある時は家族と話し合い、職員間で内容を検討して対応している。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (<input checked="" type="checkbox"/> 実施している内容・ <input type="checkbox"/> 実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p><input type="checkbox"/>利用者にとって馴染みの職員が継続的に支える体制となっている。</p> <p>職員の異動や退職者が多いため、残った職員がフォローするなど、利用者のダメージを最小限に留める努力をしているが、馴染みの職員が継続的に支援できる体制とは言い難い。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>職員が代わる時は、引き継ぎの期間を十分に取り、スムーズに移行できるように配慮している。</p> <p>異動や退職時に引き継ぎ期間を取れる時と取れない時があるが、残った職員がフォローし、スムーズに移行できるように努めている。</p>	○	<p>利用者と職員の馴染みの関係は、個々の利用者が安心して暮らすための基本であり、また、サービスの質の確保にとっても重要なことである。利用者が安心して暮らすためにも、馴染みの職員による支援が継続できる体制を確保するよう、母体法人も巻き込んで、検討することを期待したい。</p>
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/>日常的に学ぶことを推進し、パート職員にもチームの一員として、研修・会議等参加の機会がある。</p> <p>雇用形態に関わらず研修等に参加できるようになっている。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>全職員が共有できるよう、研修内容を報告する機会を作っている。</p> <p>研修参加者は研修報告書を提出し、週1回行われるカンファレンスでも報告して研修内容の共有に努めている。</p>		
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/>県内、全国組織の同業者ネットワークに加入し、サービスや職員の質向上につなげている。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>管理者・職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、職員のサービスや質向上に努めている。</p> <p>職員の交流は主に法人内のグループホームであるが、管理者が地域の他のホームとの交流を図っている。</p>		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/>入居希望者の入居に際し、その者の心身の状況、生活歴、病歴等の把握に努めている。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>本人や家族に事業所の見学や体験をしてもらっている。</p> <p>本人や家族には見学や体験をしてもらっており、見学時には利用者と一緒にお茶を飲み、希望があれば3日間程度の体験入居も行っている。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>入居希望者には、管理者と職員が面接を行っている。</p> <p>管理者と介護支援専門員とで面接を行っている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (<input checked="" type="checkbox"/> 実施している内容・ <input type="checkbox"/> 実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/>日々の生活場面の中で、利用者を支援されるのみの立場にはおいていない。 洗濯物たたみや食事の下ごしらえなど、利用者のできることは利用者が行っているが、日々の関わりの中で、職員の一方的な支援サービスになることもある。</p> <p><input type="checkbox"/>支援する側、される側という意識を持たず、お互いが協同しながら和やかに生活できるような場面作りがある。</p> <p>利用者間の口論も、日常生活においてはめりめりとなると管理者は捉えている。また、認知症の理解に乏しい職員がいるなどの意見もあり、共に過ごす関係には至っていない。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>利用者から生活の技や生活文化の大事さを教えてもらう場面がある。 折り紙を教わったりすることはあるが、利用者が更にその持てる能力を発揮できるような支援を期待したい。</p>	○	<p>地域密着型サービスの根幹である「共に過ごし学び、支えあう」利用者と職員との関係の構築について、組織としてどうあるべきかを今一度話し合い、日々の支援サービスに反映することを期待したい。</p>
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/>一人ひとりの思い・暮らし方の希望・意向の把握に努めている。 本人からの話や表情、職員間での話し合い等を通じて、利用者の希望や意向の把握に努めている。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>意思疎通が困難な方には、ご家族や関係者から情報を得るようにしている。 家族からの情報収集、利用者の態度、表情、口調等からの推測などにより、利用者の思い等を把握するように努めている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>○チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/>本人やご家族等からの気づき、意見、要望等を反映した介護計画が作成されている。 本人、家族からの要望は特にないが、プランそのものは気づき等を基に個別性のあるものとなっている。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>アセスメントを含め職員全員で意見交換やモニタリング、カンファレンスを行っている。 職員全員が参加し、週1回のカンファレンス、月1回のユニット会を開催し、一人ひとりの利用者についてモニタリング等を行っている。</p>		
16	37	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/>介護計画は、設定された期間ごとに見直しされている。 長期目標は6か月、短期目標は3か月ごとに見直している。</p> <p><input type="checkbox"/>本人、家族の要望や状態に変化が生じた場合には、その都度見直しされている。</p> <p><input type="checkbox"/>ワンパターンの期間設定ではなく、本人の状態や計画内容に応じた個別の期間設定をしている。 期間途中の個別的な見直しが十分ではない。</p>	○	<p>担当者の病欠などの理由もあるが、その人らしく暮らすことのできるプランを作成し、心身状態の変化等に即応したプランの見直しが望まれる。</p>

外部	自己	項目	取り組みの事実 (<input checked="" type="checkbox"/> 実施している内容・ <input type="checkbox"/> 実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	<input checked="" type="checkbox"/> 医療処置を受けながら生活が継続ができるように努めている。 協力病院の外来受診は職員が対応しており、透析を行っている利用者もいるなど、安心して医療処置を受けながら暮らせる仕組みができています。 <input checked="" type="checkbox"/> 重度化した場合や終末期も事業所でケアを提供している。 看取りの指針を作成し、入居時に説明して同意書をもっている。母体法人の病院との連携で、重度化した場合も安心して暮らし続けることができる体制となっている。 <input checked="" type="checkbox"/> 特別な外出、通院や送迎、外泊などの支援を行っている。 正月の外泊やかかりつけ医の受診など、柔軟に対応している。		
4. 本人がより暮らし続けるための地域支援との協議					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	<input checked="" type="checkbox"/> いままでのかかりつけ医や本人・家族等が希望する医療機関・医師に受診できる支援ができています。 本人や家族の同意を得て、母体法人の病院がかかりつけ医となっている。認知症については他の病院で受診しており、希望する病院には自由に受診できる体制となっている。 <input checked="" type="checkbox"/> 受診や通院は、本人やご家族の希望に応じて対応している。 協力病院の受診は職員が、かかりつけ医の受診は家族が対応している。家族が対応できない時は職員が対応するなど、柔軟に支援している。 <input checked="" type="checkbox"/> 受診結果に関する情報の共有ができています。 職員、家族どちらが対応した場合でも、受診結果等を介護記録に記載し、職員間で情報を共有できる仕組みができています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	<input checked="" type="checkbox"/> 終末期の対応方針を定め、家族・医師・看護師を交えて話し合いを行っている。 看取りの指針を作成しており、母体病院の支援を受けながら、家族、医師、看護師を交えて話し合いを行っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 本人や家族の意向を踏まえ、医師、職員が連携をとり、安心して納得した最期が迎えられるように取り組んでいる。 家族や本人の希望を聞き、医師、職員、家族が連携を取り、点滴が必要な場合は家族が付き添うなど、家族との触れ合いを大切にしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (<input checked="" type="checkbox"/> 実施している内容・ <input type="checkbox"/> 実施していない内容)	(○ 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	<input checked="" type="checkbox"/> 人前であからさまに介護したり、誘導の声がけをして、本人を傷つけてしまわないように、目立たずさりげない言葉がけや対応に配慮している。 <input type="checkbox"/> 他の家族や外来者に対して、職員が利用者のプライバシーに関する話を話さないことを徹底している。 話さないように努めているが、徹底されていない。 <input type="checkbox"/> 全ての職員が、個人情報保護法の理解に努め、徹底されている。 休憩時間に利用者の話をしないなど、個人情報保護に努めているが、寮母室がエレベーターに乗るための一般通路となっているにもかかわらず、寮母室に無造作に利用者の名札を掛けているなど、配慮に欠ける部分もある。	○	プライバシーの確保は利用者の権利と尊厳を守るための基本であるので、日々のサービス提供の場面でのプライバシーの確保について再検証するなど、プライバシー保護について、その徹底を図ることを期待したい。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	<input type="checkbox"/> 一人ひとりの「その日」にしたいこと(買い物や散歩等)を把握し、それに応じて柔軟に支援している。 利用者の思いを把握して支援しようとする姿勢は見受けられるが、散歩等は1日に3~4人が出かけるにとどまっている。 <input checked="" type="checkbox"/> 事業所の業務スケジュールに利用者の生活を合わせていない。 高齢者住宅の浴室を利用しているため、入浴時間やそれに伴う昼食時間が制約されることなどはあるが、起床時間、就寝、食事時間等は、利用者の希望に合わせている。	○	職員の異動による勤務体制の影響などにより、日々の生活の中で一人ひとりの利用者の希望に沿えないことが見受けられるので、異動や勤務体制の見直しなど、管理者はじめ母体法人と検討し、利用者の希望に沿った支援に向けて工夫することを期待したい。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	<input checked="" type="checkbox"/> 献立づくりから調理、片付けに至るまで、食事に関する一連の流れを職員が一方的に進めるのではなく、利用者の意志や気持ちを大切に進めている。 食事の下準備、食事、後片づけまで、利用者と職員と一緒に進めている。 <input checked="" type="checkbox"/> 職員は食事の介助にとどまらず、利用者と職員が同じものを一緒に食べている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるよう支援している	<input checked="" type="checkbox"/> 利用者のこれまでの生活習慣や希望にあわせて入浴できるよう、職員勤務体制等について工夫をしている。 高齢者住宅の温泉のような浴場での入浴希望が多いが、ホーム独自の浴室で、希望する方への夜間入浴の支援もしている。 <input checked="" type="checkbox"/> 入浴を拒む人に対しては、言葉かけや対応の工夫、チームプレー等によって一人ひとりにあわせた入浴支援を行っている。 入浴を拒否する利用者でも週1回は入浴できるよう、時間帯や人を変えて声がけをし、入浴支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (<input checked="" type="checkbox"/> 実施している内容・ <input type="checkbox"/> 実施していない内容)	(○ 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	<input checked="" type="checkbox"/> 何がその人の役割、楽しみごとになり得るかを把握している。 入居時に、家族や本人から、趣味やできることなど聴取し、なにが利用者の役割や楽しみごとになるかを把握するように努めている。 <input type="checkbox"/> 食事作りや庭木の剪定など利用者の経験や知恵を発揮する場面を作っている。 入居期間が長くなると、以前は出来ていたことでも出来なくなることがあり、やむを得ない部分もあるが、利用者の経験や知恵を発揮する場面が少ない。 <input type="checkbox"/> 一人ひとりの役割、楽しみごと等を作り出すため働きかけを行っている。 女性の利用者が洗濯、洗濯物たたみ、掃除などをすることはあるが、職員が積極的に役割や楽しみごとを作り出す働きかけをしているとは言えない。	○	利用者が豊かな生活を送るためには、利用者の能力や体力に変化があっても、その時に応じた役割や楽しみごとを見出し、支援することは重要なことである。利用者にとって、何が役割や楽しみごとになり得るかを把握し、支援することを期待したい。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	<input type="checkbox"/> 近くへの散歩だけではなく、その人の馴染みの店や場所へ出かけている。 近くのスーパーや喫茶店に行くなど戸外にでかけるよう努めているが、外出する方は利用者の3分の1程度である。 <input type="checkbox"/> 歩行困難なケースでも、車や車いす等を利用し、戸外へ出ることを積極的に行っている。 一人歩行できる人は外出しているが、車いす等の利用者の外出は少ない。 <input type="checkbox"/> 日常的に散歩、買い物あるいはドライブ等に出かけている。 花見、温泉、買い物など、ドライブに出かけることができるよう努めているが、利用者の希望に十分沿うことはできていない。	○	利用者の重度化に伴い積極的な外出支援が困難となってくるが、当ホームは高齢者住宅の一角にあり、この住宅の住民の方たちとの交流により、新たな人間関係の構築もでき、精神的な活性化や社会性の維持等にもつながる。従って、高齢者住宅の住民の人たちとの交流等も含め、利用者の日常的な外出支援を検討することを期待したい。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> 居室や日中玄関に鍵をかけていない。 <input checked="" type="checkbox"/> 利用者一人ひとりの外出の習慣や傾向を把握して、対応している。 一人で外出する利用者の把握はできており、出かける時は職員が後ろからそっと付き添うなどの安全確認をしている。 <input checked="" type="checkbox"/> 近所の人にも理解を求め、見守り、声かけや連絡をしてもらえる関係を築いている。 高齢者住宅の住民、駐在所、薬局、母体法人の病院などとの連携を図っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (<input checked="" type="checkbox"/> 実施している内容・ <input type="checkbox"/> 実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	<input type="checkbox"/> 事業所だけの訓練ではなく、地域住民の参加、協力を得ながら避難訓練等を定期的に実施している。 高齢者住宅の利用者も含め防火訓練は年2回行っているが、地域住民の参加はない。 <input type="checkbox"/> 避難路の確保(整理整頓)や消火器等の設備点検を定期的に行うとともに、非常用食料・備品を準備している。 避難場所は近隣の母体法人の理事長宅で職員にも周知しているが、非常用食料品等の備蓄はない。	○	災害時の避難には地域住民の協力が欠かせないので、地域住民の参加による避難訓練を早急を実施するとともに、災害時の非常用食料等も準備されたい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<input checked="" type="checkbox"/> 一人ひとりの一日の栄養摂取量や水分量を把握している。 <input checked="" type="checkbox"/> 一人ひとりの嗜好を把握し、献立に採り入れながら、栄養バランスにも配慮している。 腎臓透析をしている利用者が3人いるため、母体法人の栄養士が献立を作っている。行事の時などの食事は、利用者の希望に沿ったものにするなどの工夫をしている。 <input checked="" type="checkbox"/> 定期的に、栄養士や保健師等に専門的な観点からチェックしてもらっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<input checked="" type="checkbox"/> 利用者にとって使いやすい配置や馴染みの物を採り入れた共用空間になっている。 <input checked="" type="checkbox"/> 天井や壁面に掛けられた折り紙等の飾り付けが、家庭的な雰囲気を壊していない。 <input checked="" type="checkbox"/> 季節感のある装飾等に工夫するなど、季節感や五感の刺激にも配慮している。 共用空間に桜やフリージャーなど季節の花を活け、ベランダのプランターにもパンジーなどの草花を植え、季節を感じることができる配慮をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<input checked="" type="checkbox"/> 使い慣れた馴染みの物を傍に置くなど、本人や家族と相談しながら個別に工夫している。 利用者が使い慣れた家具や椅子など馴染みのものを配置し、個性的で生活感を感じることができる居室作りをしている。 <input checked="" type="checkbox"/> 家族の協力が得られない等の場合でも、本人の意向を確認しながら、その人らしく居心地のよい居室づくりに取り組まれている。		